

39 アジアモンスーン地域の農業農村開発を通じた気候変動対策推進事業

【令和7年度予算概算決定額 25（25）百万円】

<対策のポイント>

熊本水イニシアティブに基づき、アジアモンスーン地域において、農業用排水施設の整備や高度な運用等を通じて、農業農村開発分野における課題の解決を図るとともに、気候変動適応策と緩和策を両立した「質の高いインフラ」の整備を行います。

<事業目標>

アジアモンスーン地域における持続的な食料システムのモデル展開（1件以上〔令和8年度まで〕）

<事業の内容>

2022年4月に開催された第4回アジア・太平洋水サミットにおいて、岸田総理から「熊本水イニシアティブ」が発表されました。

熊本水イニシアティブでは、農業農村開発分野においても、農業用排水施設の整備や、水田の雨水貯留機能の活用を通じた農村の湛水被害軽減による気候変動適応策と、農業用排水施設を活用した小水力発電やICT技術を活用した高度な栽培管理を可能とする農業用水管理システムの導入を通じた温室効果ガスの抑制による気候変動緩和策の両方を実現することとしています。

そのため、本事業では以下の取組を行います。

- ① アジアモンスーン地域の各国において実施されている農業農村開発関連の気候変動対策を幅広く把握するとともに、緩和策及び適応策の新たな導入により相乗効果が見込まれる地域及び手法について検討します。
- ② 上記の検討結果を活用し、現地実証調査を行うとともに、その効果について、ワークショップ等を開催することにより、アジアモンスーン地域の各国に共有し、同地域の持続的な食料システムの構築に貢献します。

〔事業実施期間：令和5年度～令和8年度〕

<事業の流れ>



<事業イメージ>



ベトナム



カンボジア



ラオス

アジアモンスーン地域に位置する国々において、気候変動に対する適応策と緩和策を組み合わせた農業農村開発を展開。

案件例

○気候変動適応策

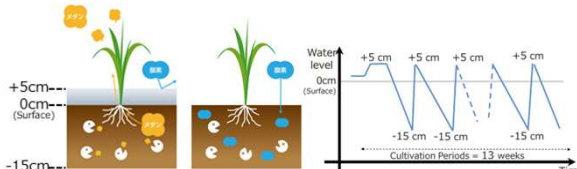
～水田の雨水貯留機能の活用～



落水口に流出量を抑制する樹等を設置し、湛水被害リスクを低減

○気候変動緩和策

～間断かんがい手法の導入による温室効果ガス排出削減～



農地を好氣的な条件下におくことでメタン発生を抑制

同じ事業対象エリアにおいて実施することにより、気候変動に対する適応策と緩和策の両面で相乗効果を発揮させる。